

7月6日(月)10:00～11:30、泉佐野市社会福祉センター2階大会議室にて、第3回児童発達支援センター主催研修会を開催しました。

講師には、桃山学院大学より、人間教育学部人間教育学科教授の松久眞実先生に来ていただき、『発達障害のある子の将来に向けて必要なこと～思春期・青年期の支援の現場から～』をテーマに、ご講演をいただきました。

研修の冒頭には、参加者それぞれが【人間の見え方・聞こえ方には、人によって大きな差があること】を実体験できる内容を取り入れていただいたことで、集団生活や学習の中で、こどもたちは『100人いれば100通りの考え方、理解の仕方があり、同様に、100通りの困り感があるかもしれないこと』を、参加者全員が理解したうえで、講義を受けることができました。

講義では、こどもたちそれぞれの困り感を理解したうえで、一人一人のこどもたちがかけがえのない大切な存在であり、そのことを保護者や支援者がきちんと言葉や行動を通して本人に伝えることの大切さが繰り返し語られました。支援者であり保護者でもある松久先生のご経験も交えて、『支援者や保護者がこどもたちを理解しながら寄り添うことが、こどもたち一人一人の自己肯定感を高め、いじめなどのつらい体験から守ることにもつながる』ということを、教えていただきました。

今回の研修は、第2回に続いて支援者と保護者が共に学ぶ機会として設定し、当日は保護者の方が43名、支援者の方が43名、合計で86名と、非常に多くの方にご参加いただいた研修となりました。

泉佐野市立児童発達支援センターでは、今回のような支援者と保護者が共に学ぶ機会をはじめとして、様々な学びの機会を考えていきたいと思います。

